

令和2年度 水城高等学校自己評価表

目指す 学校像	○学力の向上を図り、グローバル化・多様化する社会に通用する人材の育成を目指す。
	○主体的に学び、活動する姿勢を育み、自ら考え、判断し、行動できる人材の育成を目指す。
	○部活動等の課外活動に意欲的に取り組み、活力ある学校を目指す。
	○健全な道徳観を有し、敬愛・友愛の情をもって他者と協調し、社会に貢献できる人材の育成を目指す。

昨年度の成果と課題	本年度の重点目標	重点目標	達成状況	
・京都大学・東北大学(4名)・東京工業大学(2名)・一橋大学・北海道大学・名古屋大学などの難関国公立大学をはじめ、筑波大学(13名)や茨城大学(44名)に多数合格するなど、国公立大学・大学校を合わせて133名の合格者を出した。 ・私立大学の合格者は早稲田大学(7名)や、慶應義塾大学(5名)をはじめ802名(うち短期大学6名)となった。 ・国公立大学医学部医学科に4名、薬学部に42名が合格した。 ・引き続き難関国公立大学に連続して合格者を出すとともに、定員の厳格化等で厳しくなっている難関私立大学への入学も含め、一人ひとりの希望に合った進路実現を目指す。 ・部活動の一層の活性化を図り、文武両道を目指す。	・授業の質の向上を目指す。	・タブレット導入4年目。全生徒がタブレットを持つ充実したICT環境の中での主体的な学びを実現し、今年度から実施される大学入学共通テストに対応できる学力を身に付けさせる。	5	・新型コロナウイルス感染拡大で自宅学習・遠隔授業をせざるを得なくなったが、本校のICT環境を活用し円滑に対応した。
		・十分な教材研究を積み、教員間で授業見学を行ったり、他校や外部からの授業参観を積極的に受け入れたりすることで、常に研鑽し、質の高い授業を展開できるよう努力する。	4	・コロナ禍の制約上、他校参観の機会は設けられなかったが、茨城県・水戸市教育長等から視察の要請があり貢献できた。
		・生徒からの授業アンケートの結果を指導に生かし、常に授業の改善・工夫に努める。	4	・生徒の要望・感想を真摯に受け止め、授業改善に努めた。
	・きめ細かい進路指導を実施する。 ・国公立・難関私立大学等、希望する大学に多数の合格者を出せるよう努力する。	・個別面談・LHR・集会をはじめとして、学校生活の各場面で生徒をよく観察・把握し、生徒の適性や希望に応じたきめ細かな進路指導を行う。	4	・三者面談を含めた面談の機会を設け、進路情報を提供し相談に乗り、生徒がより良い選択ができるように努めた。
		・各種講演会や各種研修会を実施し、教育の現状や実態を十分理解して、幅広い知識をもって進路指導にあたる。	4	・コロナ禍のため、外部講師による講演会や研修会は制約があったが、進路講演会や外務省の講演会等の機会を設けた。
		・新入試問題の傾向分析と模擬試験結果分析を、定期試験・達成度確認試験の作問のスキル向上に活かし、日々の学習活動やゼミ活動をととして、生徒の学力の増進を図る。	4	・新入試に変わった一年目であり、新傾向問題への対応について外部からの情報を収集し、試行錯誤し、指導に努めた。 ・SY研を通じて諸問題を探究させ、新入試の実績へつなげた。
	・生徒が落ち着いて学習でき、安心して安全に学校生活が送れるような環境を整える努力をする。	・多様化する生徒の実態を踏まえて、教職員チームによる支援体制を整え、中途退学や転学の防止を目指し、必要な研鑽を積み、対応する。	4	・校務分掌に教育相談部を新設して、カウンセラーと連携して、多様な生徒に、より一層きめ細やかに対応すべく努めた。
		・通学路での交通安全指導等をととして、交通ルールの遵守と公共の場でのマナーを身に付けさせる。	4	・生徒指導部主導で全教員が毎月交替で朝立哨・放課後巡回をし、自治体や他校とも協力し登下校時安全指導に当たった。
		・情報化社会を生きる人間としての自覚を持たせ、SNS利用時の注意点などを踏まえたメディアリテラシーを身に付けさせる。	4	・コロナ禍で講演会は開けなかったが、情報の授業や集会・LHRを通じメディアリテラシーにふれ、トラブル防止に努めた。
	・募集広報活動を充実させる。	・普段から生徒をよく観察し、また面談やアンケートを活用することで、いじめの早期発見・未然防止に努める。	4	・日常最新の留意をするほか、いじめについて匿名アンケートを年2回行い、問題がある際は、迅速に適切な対応をとった。
		・本学の教育理念に共鳴する入学者を確保するために、組織的・計画的に広報活動をする。	4	・生徒募集部を通じ中学校に適切・丁寧に説明をする一方で、日常からホームページを通じ、本校の活動を外部に発信した。
		・部活動など課外活動に多くの生徒が参加し、学業と両立し、充実した高校生活を送れるよう支援する。	4	・男子駅伝が15回目の全国大会出場を果たし、アーチェリー・空手道・書道・写真も全国的な活躍をした。県内でも、軟式野球が優勝、女子駅伝が2位、女子バスケットが3位、硬式野球がベスト8など、コロナ禍で制約が多い中で健闘した。
	・課外活動・特別活動を活性化させる。	・清掃等の奉仕活動を通して公共心や社会性、他者を思いやる気持ちを養うとともに、環境問題を考えるきっかけを与える。	4	・毎日の清掃活動を通じ、環境美化の習慣を身につかせた。
		・生徒会や委員会等で、生徒がより主体的に活動できるよう、適切な助言・支援を行う。	4	・生徒会、生活・出版・美化・保健・図書・放送・体育の各委員会が所定の活動を行うように助言・支援した。

1. 教科

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	次年度への課題
国語	・コースと連携し、生徒の基礎学力の向上を図る。	・コースの独自性を生かして、朝自習やゼミ学習の機会を活用し、授業時間以外での日常的な学習時間を確保する。特に、ゼミに関しては、基礎から応用まで幅広く講座を開講することで、学力層に応じたフォローアップを図る。これらを通じて、社会生活を送る上で十分な国語能力を身に付けさせる。	4	4	・各コース朝自習やゼミ学習を工夫し学習習慣を身に付けさせる取り組みをしている。今後も基礎の語彙力、運用能力を高めていく必要がある。
	・生徒の家庭学習習慣を確立する。	・授業の中で予習復習及び教科書にとどまらない自主的な取り組みの重要性と効果を継続して説き、生徒自身が主体的に課題発見と課題克服に取り組めるようにする。そのための課題を適切な分量とタイミングで提供し、家庭学習を中心とした自主学習習慣を定着させる。	4		・ICT環境を活用して教材を配信し、小テストや授業の復習に取り組めるように設定している。提出を課さないなどやらない生徒もいるため、自主的な取り組みとなるように指導していきたい。
	・生徒に言語活動を通じた情報処理能力や表現力を養わせる。	・授業の中で多様な文章や問題に触れ、図表を含めた読解はもとより、自身の意見を述べる際の表現力を養う。またICT環境も積極的に活用することで、教員からのきめ細かい指導を行う。さらに、学校外の各種コンクール等に応募することで、客観的評価を得ることにより、生徒のやる気を喚起する。	4		・共通入試に向けて複数資料の読解や実用的文章を取り上げているが、基礎となる記述力の養成が課題である。コンクールへの応募は今後も積極的に促していく必要がある。
	・生徒の理解を深めるための授業スキルの向上を図る。	・教員間で授業見学や意見交換を行い、教材研究や授業方法を省みる機会を設けることにより、生徒の理解に合わせた授業を絶えず模索していく。また新採教員へのフォロー、アドバイスを教科全体で行うことで、双方のスキルアップにつなげる。	3		・遠隔授業を行うにあたって、コース担当者同士の意見交換が活発になり、教員のスキルアップにつながった。今後も模索していきたい。

地歴 公民		・我が国や世界の歴史・地理・文化の学習を通じて価値観やバックグラウンドの多様性を理解し、相互理解や共生に必要な知識を自ら習得できるようにするための探究活動・対話的活動を保障する。	3	4	・依然として対話的活動には制約が多かったものの、多角的な視点の涵養や多様性への理解、思考力を養う授業展開を積極的に行うことができた。
	・多様性を前提とした社会に生きる主権者として必要な政治的教養ならびに国際感覚・人権感覚を自ら習得し判断することのできる主体的学習者を育成する。	・基本的な知識に基づき、文章や図表の理解、複数の資料の比較などを通して論理的な思考力を育成し、そこで形成されたそれぞれの主張を他者に明快に伝える表現の場を設ける。	4		・口頭での発表以外に設けるべき表現の場のイメージに教員間で差があったものの、一方的な知識伝達はなるべく避け、図表やデータを用いて生徒自身の主体的な理解を促す教育活動は積極的に行うことができた。
		・在学中に選挙権を得るにあたり、社会の形成者としてふさわしい態度を養うため、授業その他の学習において得られる知識や活動が自身の人生や我が国および国際社会の将来とどのようにかわるかを意識するための言語活動などを保障する。	4		・多くの科目で現代社会の諸事象と関連付けた授業展開を行うことができ、政治系の公民科目のみならず教科全体で取り組むことができた。生徒の意識については具体的な活動が保障しきれなかったこともあり目に見えた変化は少ないが、次年度以降の主体的な活動に期待したい。
	・上記の目標を達成するための教員の取り組みに関する共通理解を発展させ、水城高校が目指しかつ21世紀に必要な学力観に沿った学習指導を行う。	・個々の教員の取り組みとして実践されてきた主体的・対話的で深い学びを支援する教育実践を共有し、生徒に身に付けさせるべき資質・能力の育成やその評価について、教員組織としての最低水準を高め、学習のデザインや筆記試験・探究課題の出題スキルを向上させる。	4		・遠隔授業の持ち回りでの作成による互いの授業観の確認や、新教育課程表作成のための意見交換、達成度確認試験の作成、主専攻以外の授業を担当することによる教員間での教材研究や教材観の共有など例年以上に活発な意見交換が見られた。自主的に勉強会を行っている科目もある。これらの取り組みをもとに、次年度以降、新課程での教育方法や観点別評価のための意見交流を進めたい。

数学	・生徒の基礎学力の向上を図る。	・授業重視を徹底させる。そのために教員一人ひとりが授業力の向上と生徒理解に日々努める。また、学年・教科担当者との連携を深め、より効果的な授業を展開するように努める。	5	4	・教科担当者同士、適度に話をし連携を深められている。授業重視で教科書、副教材、小テストなどを多用し、各担当者行っているので、それを継続していきたい。
		・問題集を活用して演習量を増やし、基礎学力の定着を図る。また、小テストを実施して生徒の定着度を確認するとともに、定期試験・模擬試験の見直しをさせる。	4		・定期試験・模擬試験の見直しをさせるようにはとめているが、テスト等が多く見直し等に時間をかけていないところもある。問題集を活用し、普段の学習量を増やしている。
	・生徒の家庭学習習慣を確立させる。	・教科書や問題集等から課題を定期的に出すとともに、日頃から自らの意志で取り組むことの重要性を説き、家庭学習習慣を定着させる。	5		・宿題を問題集やプリントで定期的にだし、家庭学習を定着させた。今後も自ら学習に取り組ませよう、継続してつとめていく。
	・ICT教材を活用し、生徒の理解度を高めるような授業を展開する。	・グラフソフトや動画ソフト等を利用して、わかりやすい授業をするように努める。また、ALやファイル配布システム等を利用して、生徒の理解度を確認し、個々の生徒に適した教材を提供する。	4		・グラフソフトや動画ソフト等を利用している教員もいて、ALやファイルを利用して理解度を確認している教員もいる。各担当者間にまだ差があるので、共有できるところは共有し、授業スキルのさらなる向上をはかる。

理科	・自然科学に対する関心を高める。	・ICTの活用仕方等、教員間で積極的に情報を共有する。 ・教科書だけでなく、時事問題との関連付けを行い、生徒の興味・関心を喚起する。	4	4	・ICTの有効活用を求めて、教員間の情報共有を進める。 ・思考力問題対策という観点からも、より時事問題を扱っていく。
		・観察、実験やデジタルコンテンツを積極的に取り入れてイメージを捉えやすくし、自発的な探究心も養う。	4		・観察も含めた実体験をもとに生徒に思考させる習慣をよりつける。 ・他人との情報共有により、表現力や協調性などの涵養も目指す。
	・基礎学力の定着を図る。	・各コースごとに達成すべき目標を明確にし、教員間で共通認識をもつ。 ・教科書内容を理解・記憶させ、小テストや定期試験を用いてその定着を図る。	4		・観点別評価の評価導入を目前に、より生徒に還元できる評価のためにも、目標をより明確にする。 ・達成度確認試験の振り返りを元に、より安定した基礎の上に学力を培っていく。
		・模擬試験や入試問題の演習を通じて、応用力を養う。 ・新入試での得点力を養うため、新入試問題(思考的な演習問題など)の研究・分析をする。	4		・入試や模試等の分析会を行い、指導方法に還元していく。

評価基準 5: 十分達成できている 4: 達成できている 3: 概ね達成できている 2: 不十分である 1: 達成できていない

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	次年度への課題
保健 体育	・生涯を通して主体的に、スポーツ活動に親しめる姿勢を養う。	・スポーツ活動を通して生まれる爽快感や楽しさ、各種目の技術が出来た時の達成感や満足感を感じられる授業展開をする。 ・様々な種目のスポーツを授業で取り入れ、自分の得意なスポーツを見つけられるようにする。	4	4	・新型コロナウイルスの影響で体育実技の授業の内容を制限しなければならない。その中でも生徒達が楽しめるよう、授業内容を工夫してスポーン活動を意欲的に積極的実施できるようにする。
	・保健の授業で学んだ知識や技術を自分の生活の中で役立て、更に実践出来るようにする。	・日常生活の中の話題を中心に授業に取り入れ、実際の生活と結び付けて主体的に知識の理解を得られるようにする。 ・ICT教材(デジタル教科書等)を利用して探求し、興味関心を得られるような授業展開を図る。	4		・身近な生活の話題を取り上げ、身の周りの事象に対処できる知識を身につけさせるようにする。 デジタル教科書を活用し授業を展開していく。確認テスト等を行いその結果をタブレットを用いて報告してもらい理解度をチェックする。
	・用具・施設を大切に使う態度を養う。また、安全に留意し自分の役割と責任を果たしながら互いに協力する態度を養う。	・授業で使用する施設や道具の準備・片づけを行うことで、生徒達に責任感や公共心を培うよう指導する。また、怪めの防止から安全に十分に留意し助け合いながら学ぶ協調性を養わせる。	4		・体育用具の管理・施設等の使用に関し決められたルールをしっかり守り、公共物を大切にさせる。新型コロナウイルス対策として授業が始まる前後の消毒、道具の使用開始と終了時の消毒、ソーシャルディスタンスの徹底やビブスの着用禁止を行うようにする。

英語	・「聞く」「話す」「読む」「書く」を総合的かつ統合的に指導することで、実践的なコミュニケーション能力を育成するだけでなく、入試に対応できる英語力を身につける。また、Eラーニング系のコンテンツ導入により、さらなる良好な学習環境を作る。	・聞く力：初期段階において多くの英語の音声聞かせ、文字からではなく音声からの英語習得を図る。また導入したEラーニング系コンテンツコンテンツの稼働率を上げるために、課題の配信や定期試験での出題を適切に行い、生徒が自ら学ぼうとする環境を作る。	4	4	・Eラーニング系コンテンツを授業の中にも取り入れたことにより、稼働率は昨年度と比較して非常に高かった。授業での音声指導とEラーニング系コンテンツの使用により、生徒のリスニングに対する意識も高まっている。共通テスト・英語リスニングに対応すべく、今後も継続してリスニング指導を行っていく。
		・話す力：正しい発音での英文暗唱を行ったり、英語で簡単に自分の意見を言えるようにする。また、聞く力と同様に、Eラーニング系コンテンツを導入し、日常的に学習できる環境を整える。英語検定の面接対策を強化する。	4		・今年度はコロナウイルスの影響もあり、音読等の活動も制限される時期が長かったので、評価がしづらいところである。しかしその中でも、英検の面接対策をオンラインで視聴できる形にして配信するなど、生徒が自ら英語を話す機会を提供できた点は良かった点であり、継続して動画を増やしていきたい。
		・読む力と書く力：英文法の基礎力をつけつつ、「聞く・読む」の活動を通して、英文の直読・直解を行う。また、文章の段落構成を意識させ、まとまりのある段落・文章をかけるようにする。また、英語検定の英作文に向けての対策を強化する。	5		・読む力の指導に関しては各教員が工夫を凝らし、十分に指導することができている。書く力に関しても、英検の英作文で合格点を獲得することを1つの目標にし、各授業で対策を行うことができている。来年度は全生徒に向けて英作文対策動画を配信する予定である。
	・学年と教科が連携し英語学習の基盤を作り、学校全体で生徒が積極的に英語学習に取り組める環境を作る。そして、生徒が自ら英語学習に向かっていくように仕向ける。	・語彙の習得：学年、コースと協力し、朝学習として単語テストを行うなどの活動をする。それを定期試験と連動させて、一層の定着を図る。また、授業内で単語の音声を継続的に学ばせる。	5		・学年の協力を得て活発に行われた。生徒の学習習慣構築の土台にもなっている。授業では単語の音声を毎回確認するなどし、語彙力とリスニング力の向上をさせることが出来た。語彙の習得に関しては、方法論を議論するよりも、生徒の語彙に対するモチベーションをどう向上させるかを議論していく必要がある。
		・文法の習得：授業では基本的な文法事項の定着を目指し、ゼミではその力を応用レベルまで向上させていく。反復練習を中心に行い定着を図る。また、映像授業の充実を図り、英語が苦手な生徒のフォローもその映像授業により行う。	4		・文法指導に関しては各教員が教材を工夫して作成しており、授業で基礎内容、ゼミで発展内容を扱うなど良いサイクルも出来上がっている。ただし現在大学入試自体が変化してきており、英文法の指導方針や指導の仕方を再構築しなければならないので、教科内で話し合いながら少しずつマイナーチェンジしていきたい。
		・動機付け：昨年に引き続き、授業の内容や教材を工夫し、生徒の動機付けを行う。また、英語検定などの資格取得を目指すことで学習意欲を高める。1年時に英検準2級、2年時に英検2級、3年時に英検準1級の取得を1つの目標とする。	5		・英検取得を中期的な目標に据え、生徒の英語学習意欲を向上させることができた。Eラーニング系コンテンツの導入や動画配信により、従来手が回らなかったライティングやスピーキングの対策も充実しており、生徒の資格取得をサポートする体制は整いつつある。来年度は一層それを発展させたい。
	・多様化する入試科目としての英語を研究する。それにしっかりと対応するために、教員の更なる英語指導力の向上を図る。特にICTを使った教授法について研究する。	・実践力の強化：大学入試の出題傾向や出題形式を教員が分析する。特に、新入試での問題の変化に対応する。教員自らが生徒に合った教材を作成し、入試に対応できる力を付けさせる。	4		・今年度初めて行われた共通テストに対して英語科各教員で分析を進めているものの、教科全体での分析や次年度以降の方針決定の議論は進んでいない。そこで、次年度に向けて情報の共有をしていくことが課題である。
		・指導力の強化：ICTを使った教授法に関して校内で研修会を行う。教員各自が外部の研修会などに積極的に参加する。	4		・外部での研修は現在の社会状況もありあまり活発になっていないものの、ICT教材に関しては教科内で議論を重ねながら毎年良い教材を提供できている。来年度は外部情報も取り入れつつ、水城のICT環境ならではの独自の教材を発信していきたい。

芸術	・各科目の特質についての知識を深め、意図に基づいて表現する為の技能を身につけられるようにする。	・表現と身近な生活との関わりを理解した上で、各科目の基礎的な知識・技能を身につけ、意図に応じて方法を工夫した表現が出来るようにする。	4	4	・基礎的な知識や技能を習得できるように展開する。
	・創造的な表現を工夫するとともに、芸術の良さや美しさを深く理解して味わうことが出来るようにする。	・各表現の特性や表現過程を理解し、自ら考え、判断し、調和・バランスを考えながら表現出来るようにする。	3		・作業のプロセスを理解し、創造的な思考を持たせ、多様な表現ができるような環境にする。
		・鑑賞を通じて、対象の見方や感じ方を深め、工夫されている点や芸術的な価値を適切に感じ取れるようにする。	4		・鑑賞の機会を増やし、感じたことをまとめるようにする。
	・芸術を愛好し感性豊かな生活をおくると共に、来たるべき社会を創造していく態度を養えるようにする。	・鑑賞に関わる知識を得、その背景との関わりや自然と表現との関わり、さらに、社会における有用性を考えつつ、主体的で創造的な学習(表現)が出来るようにする。	4		・身近にある芸術の素材に気づかせ、自らの課題に対し思考・判断し、解決する力を育む。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	次年度への課題
家庭	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を習得する。	・家族・子ども・高齢者など共生社会について理解できるようにする。	4	4	・基本的知識の定着のため小テストの実施。また、自主性・創造性が身に着つよう調べ学習やディスカッション・プレゼンを実施し、基本的知識からその応用ができるような力をつけていきたい。
	・学習した知識と技術を活用し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。	・衣食住、経済生活および環境について理解し、実践できるようにする。	5		・技術の定着を図るため、家庭・地域における課題を見つけ、その解決のためのプロセスをレポートにまとめるなど主体的学習を徹底していきたい。
	・様々な実習を通して実践力を身につけ、日々の生活に生かせるようにする。	・被服実習を通して基礎を定着させ、日々の生活に生かせるようにする。	5		・コロナウィルスなど実習に制限があることを想定し、実践力を身につけるための実習の方法を模索していきたい。
		・調理実習を通して実践を身につけ、日々の生活に生かせるようにする。	4		

情報	・Office系ソフトウェア(Word、Excel、Power Point)の操作を習得する。	・授業内でOffice系ソフトウェア(Word、Excel、Power Point)を用いた実習を行い、操作方法を習得する。	5	4	・VBAを活用したマクロの習得にチャレンジさせたい。
	・情報リテラシーを身に付ける。	・インターネットの利用や教科書を通して、正しい情報収集能力や情報モラル、著作権の利用等、情報リテラシーを学んでいく。	4		・SNS上でのトラブルを起こさない・遭わないよう、情報モラルという面でより重点的な指導をしていきたい。
	・プログラミング的思考を身に付ける。	・ビジュアル系プログラミング言語のScratchや、HTMLを用いたホームページの作成を通じて論理的思考を涵養する。	3		・プログラミング言語の習得とイメージしたものをかたちにさせるという点に関して、より各クラスの実情に応じた効率的な指導が必要である。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

2. 校務分掌

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	次年度への課題
教務部	・教員の授業力向上に努める。	・タブレット、Teams、資料アーカイブ等を活用し、生徒の理解力向上のための授業が行えるよう、外部の研修会に参加できる機会が増えるように努める。	4	4	・コロナ禍において教職員・生徒ともにICT活用が飛躍的に向上した。授業の進度や理解に対し今後も効果的に活用していきたい。
	・より一層ペーパーレス化に努める。	・校内での印刷物の削減や、各家庭への成績配信等、さらに多方面でペーパーレス化が進むように努める。	4		・授業や朝自習で印刷物の配布を行う部分と、課題配信を行う部分との棲み分けが進んでいる。用途・目的に応じて利用していきたい。
	・図書館の利用のありかたを考える。	・電子図書館の構築に向けて情報収集に努め、近い将来の移行を検討する。	3		・情勢として現段階での移行は高額であり、課題も多いことがわかった。今後も情報収集を進めていきたい。

進路指導部	・学力の3要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性)を身につけた生徒を育成し、希望進路を実現させる。	・学力向上に資するゼミ学習を提供するとともに、入試分析・模試分析にもとづいた進学検討会を実施し、本校における進路指導・学習指導のPDCAサイクルを確立する。	4	4	・模試分析を行い、小間別結果や学力の特徴などを全体で共有したが、その後のカリキュラムマネジメントまでつなげることができなかった。よって、生徒の成績向上に反映させることが難しかった部分がある。
		・「総合的探究の時間」の「SY研」の探究学習を充実させるとともに、校外にも主体的な学びの場を広げることことができるような機会を多く提供し、指導する。	5		・「総合的探究の時間」の充実を多方面にわたって追求し、生徒の学ぶ姿勢を鍛えることができた。総合型・学校推薦型選抜入試合格につなげることができた生徒も多い。さらに「社会に開かれた教育課程」とすることが今後の課題である。
		・「学習指導計画表」の「思考力を養う場面」の実践等を通しての授業改善を教員に対して促すとともに、eポートフォリオ等を通じた学びのPDCAサイクルを生徒が確立することを援助する。	4		・教育改革の内容を踏まえ、授業改善を図ったり、その意識を持とうとしたりする教員が増加したと考える。ポートフォリオ指導にも理解を示す教員が増えたが、生徒への浸透については、いまだ不十分な部分がある。

生徒指導部	・基本的生活習慣を確立させ、充実した学校生活を送る基礎を作る。	・教職員の共通理解のもと、足並みの揃ったきめ細かい生活指導体制を確立する。 ・問題行動の未然防止に努める。	3	3	・特に服装(制服)指導においては、教員が足並みを揃えて指導しているとは言えないように思われる。教員集団として、一体となって取り組む必要がある。
	・規範意識を持って自主的・主体的に判断し、行動できる生徒を育てる。	・交通ルールやマナーについては、生徒自らが公共の場での責任ある行動とは何かについて学び、考えるよう契機としてとらえる。 ・ソーシャルメディアに対するモラル向上にも積極的に取り組む。	3		・自転車通学者を含め、登校時の交通マナーは確実に改善されている。ただし、下校時の状況については教員の下校指導も含め、継続的に指導が必要である。
	・生徒たちが自主的、主体的に取り組む機会を増やし、部活動を含めた学校生活の充実を図る。	・生徒会活動や各種委員会の活動を活性化させる。	3		・生徒活動係を中心に、各委員会顧問が「活動方針」を示し、生徒達が主体的に取り組めるような体制を整えたい。
	・安心して登校し、安全な学校生活が送れる環境を提供する。	・いじめ等の問題は早期に発見し、迅速に組織的に対応する。 ・外部講師による講話の充実と、日々のHR活動や集会等を通して、学校内外における防犯意識を向上させる。	3		・情報モラル教育、交通安全教育、いじめ防止、薬物乱用防止に関する外部講師による講話の充実を図るとともに、生徒たちが自ら考え、行動するような機会を提供する必要がある。

保健環境部	・心身の健康の保持増進を図る。	・主体的に自ら健康管理ができるよう自己管理能力の向上を図る。 ・多様化・複雑化した健康課題を抱える生徒の支援の充実を図る。	4	4	・今年はコロナ禍の中で救命講習会は実施が難しいと判断した。救命措置を施せるバイスタンダー育成のため有効な機会であったので次年度は実施したい。 ・関係者間で支援を必要とする情報共有を慎重にかつ充実させると共に、生徒の心身の健康の発達に努めたい。
	・保健管理の充実を図る。	・健康で安全な学校生活が送れるよう環境の維持、改善を図る。清掃活動を通して環境美化の意識の向上を図る。 ・健康診断等から健康状態を知り、自らの健康に関心を持ち守り高める意識の向上を図る。	4		・保健委員会・美化委員会の活動の反省を活かし次年度の活動に繋げていきたい。 ・体育科で毎年実施する体力測定により、自分自身の体力の現状を把握させ、自らが自己の健康の保持増進出来るように促したい。また「保健だより」を通して健康への関心を高めさせていきたい。
	・社会貢献への意識向上を図る。	・全校での献血啓蒙活動を行う。 ・3年生による赤十字血液センターの献血に協力する。	5		・昨年度献血活動連続50年実施という節目を迎えた。今年度3年生による献血は、希望者が200名を超え、ひとつの個人ができるボランティア活動として多くの生徒が賛同。また、コロナ禍の中献血者数の不足が懸念される中で、学校としても少なからずの貢献が出来たと思う。このような観点から、来年度も9月中の実施で計画した。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	次年度への課題
教育相談部	・教育相談・カウンセリングの充実を図る。	・教育相談室とカウンセリングルームを整備し、生徒が相談しやすい環境を整える。	4	4	・教育相談室は主に別室登校の自習室や、教室に入れない生徒の緊急避難場所として有効に活用された。今後は、より生徒や教員からの相談にも対応できるようにしたい。カウンセリングルームは生徒・保護者の相談に活用された。次年度も継続して環境整備を図る。
	・個に応じた適切な生徒支援を行う。	・各学年・関係部署と連絡を緊密に行い情報を共有し、またシステムを活用することで、「気になる生徒」を早期に把握し、個に応じた適切な支援を行う。	5		・月1回教育相談報告会を実施し、各学年からの報告をもとに養護教諭、カウンセラーと情報を共有し、対応を検討してきた。報告会以外にも、担任・学年主任と教育相談部が相談し、別室登校をはじめ個に応じた支援を迅速かつ適切に行うことができた。次年度も継続したい。
	・校内研修・広報活動の充実を図る。	・生徒支援や生徒対応についての校内研修を実施したり、「教育相談だより」を発行したりすることで、教員全体で生徒理解と対応に努める体制を整える。	4		・職員会議で教育相談の現況報告を行い、生徒の抱える問題や保健室利用状況、カウンセリングの現状などを共有できた。また、「教育相談研修会」で生徒対応のケーススタディーを行ったり、「教育相談だより」を発行したりするなど、一応の目標は達成できた。次年度は研修会を複数回実施し全体で生徒理解を深めること、「教育相談だより」の複数回発行が課題である。

渉外部	・魅力的なPTA活動を目指す。	・総会や常任委員会、各種委員会の出席率を高め、活発な意見交換を促す。 ・視察研修、講演会等のPTA行事への参加者を増やす。	4	5	・コロナ禍の中、PTA会員からのアイデアと学校システムにより、書面による総会など新たな形で行うことができた。来年度も全会員が参加できるような方法を模索しつつ、PTA行事に取り組んでいきたい。
	・機能的な組織作りを目指す。	・システム(お知らせメール・資料アーカイブ等)を活用し、会員との双方向の意見交換を可能にする。	5		・次年度もPTA会員の現状にあったシステム、予算にあった企画・方法を模索しつつ、取り組んでいきたい。
		・PTA会員の現状に則した機能的で効率的な組織作りを目指す。 ・限られた予算を有効かつ公平に多くの会員に還元できる企画・方法を考える。	5		

生徒募集部	・安定した入学生数の確保に全力で取り組む。	・単願者数の増加を第一目標とし、個別に丁寧かつきめ細かな対応を行う。	4	4	・推薦入試の受験者数増加などで、一定の成果はあったと考える。一方で、一般入試の併願者数が昨年度より大幅な減少になってしまったことについては責任を痛感する。しっかりと反省し、改善をして次年度の受験生確保につなげたい。
	・本校の強みであるICTを受験生確保につなげる。	・コロナ禍のなか、本校の強みであるICT教育のPRを積極的にすすめるとともに、WEB出願導入に伴う新しい募集戦略を構築する。	4		・ICTの先進的な取り組みの紹介については、かなり周知が進んでいるものと考えている。また、WEB出願については、いくつかの大きな課題が発見されたので、次年度にはやり方を改善し、混乱を生じさせないようにするつもりである。
	・教職員一丸となつての募集活動を展開する。	・生徒減少期を迎え、危機感を共有する教職員集団となるよう校内への情報発信を行う。また、管理職はじめ各学年・分掌等との連携を密にする。	3		・募集部としての情報発信の機会を十分にはつくれなかったとの反省がある。受験者数、入学数ともに厳しい現実を突きつけられており、学校全体で危機感を共有することがより重要になってくるので、何らかの手段を講じていきたいと考えている。

システム管理室	・安定稼働に向けた高い冗長性と可用性の確保。	・費用対効果を見極めつつ、事業継続性を高めるシステム構成の改善を継続する。	5	5	・グループウェアのメーカーが発表した方針変更に遅滞なく対応できるように、次年度より新しいグループウェアの検証を行う。
		・情報科と連携し、生徒がICT環境を円滑に活用できるようにする。	5		・引き続き、円滑に活用できるようにする。
	・使いやすさや利便性をさらに向上させる。	・校務システム・教育システム・Office365(クラウド)の3つの環境を、適切なレベルで融合的に活用できるようにする。	5		・2022年度入学生から大幅に切り替わる指導要録・成績評価方法・進学用調査書の3点を、スムーズに導入できるように次年度中に各種システムの改修を行う。
		・メンバー各自がそれぞれの立場やスキルのレベルに応じて、そこにある問題についてシステムの的に解決する方法を創造できるようにする。	5		・システム管理室メンバーが、色々な場面において、その作業の熟達者と同じレベルでの判断や作業ができるように、メンバーの経験値を上げたり情報共有したりしていく。
	・緊急事態下においても、水城のICTで教育環境を支える。	・『テレワーク』環境の完成や、『遠隔授業』を実践できる環境と研修の実施を遅滞なく行い、正常性バイアスにとらわれることなく危機管理を行う。	5		・必要な時に、即座に、視聴する側の人が見やすく、システムのにも適切な形で、動画系コンテンツを作成・配信できるように、動画系インフルエンサーのスキルアップと、動画コンテンツが作れる教職員のすそ野を広げていく。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

3. 学年

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	次年度への課題
1学年	・基本的な学習習慣を確立し、自らの意志で主体的に「学ぶ」ことのできる生徒を育成する。	・各教科とも連携して予習→授業→復習の学習サイクルを確立し、高校生として必要な家庭学習の質と量を確保することができるよう指導する。また、朝自習や放課後のゼミ学習などを利用して、学習習慣の定着を図る。	4	4	・授業、朝自習等を主体的に取り組んでいる様子が見受けられた。 ・スタディサポートの結果を踏まえて担任が個別面談を実施して、高校生として必要な家庭学習の時間について事細かに指導してきた。今後も、学習習慣の定着を図るために学習計画を考えさせ、生徒自身が主体的に「学ぶ」ことのできるように指導していく。
	・自らの将来の進路に関して真剣に考えることができる生徒を育成する。2年次に向けて適切な文理選択ができるように指導する。	・進路適性検査、キャリアガイダンス、教育課程説明会、進路講演会などを通じて、生徒たちが進路について真剣に考える機会を設ける。 ・学級懇談会や面談を通じ、保護者との情報の共有を図り、保護者・教員が共通理解の元で生徒の進路についてサポートすることができる環境整備に努める。	5		・進路講演会を開催し、大学受験についての考え方、大学入試の現況、文理選択などの進路に関する基本的な情報を生徒に与え、生徒自身の進路について考えるきっかけを与えた。また、キャリアガイダンスも開催し、就きたい職業など将来の生き方を生徒に考えさせ、目先の進学だけにとらわれないで、その先を見通した確かな職業観へ繋がるように指導した。 さらに、保護者対象教育課程説明会や三者面談を実施し、家族でも文理選択・選択科目について話す機会を増やした。各種行事やLHRでの担任指導等により、文理選択に必要な情報は十分に提供することができた。今後は生徒一人ひとりが具体的な進路目標を設定できるように指導していく。
	・集団生活を送る上で必要な規範意識やコミュニケーション能力を養成し、国際社会に適応する人材の育成を目指す。	・林間学校やクラスマッチなどの学校行事やクラス内での活動を通じて、生徒同士または生徒と教員がお互いに協力し合う経験を積ませ、他者との適切な関係性を築くことのできる成熟した大人への成長をサポートしていく。	4		・林間学校やクラスマッチなどの学校行事を通じて、価値観の違う他者との関わりの中で、コミュニケーション能力を培い、協力して物事を成し遂げることの大切さを学ばせることができた。特に林間学校については各担任の指導のもと、生徒一人ひとりの自覚ある行動のおかげで、大きなトラブルもなく終了することができた。次年度も様々な学校行事を通して2年生として1年生の模範となれるように、継続的な指導していく。

2学年	・入試に対応できる十分な基礎学力を養成する。また、自ら課題を見つけ、それを主体的に解決していく姿勢を養う。	・毎日の授業を大切にすることはもちろんのこと、朝自習にもきちんと参加するように指導する。また、ゼミや放課後学習(家庭学習も含む)への積極的な参加を呼びかけをして、学習時間を確保させる。 ・小論文指導、修学旅行での自由行動計画等を通じて、主体的に考えて行動する姿勢を養う。	3	4	・休校期間が長かった影響で、1学期は生活のリズム・学習への取り組みが良くない生徒もいたが、徐々に改善された。2学期からは大学受験を意識し、放課後教室や自習室で勉強する生徒が増え、学習時間が増えてきた。その反面、朝自習に遅れてくる生徒がまだ数名いる。次年度は、大学受験に向けて計画的に学習するように指導していく。
	・自らの進路について主体的に考えさせ、3年次に向けてより具体的な進路目標の設定ができるように指導する。	・進路講演会、大学出張講義、保護者のための学習会等の学年行事を通じて、生徒と保護者が進路について具体的に考える機会を設ける。 ・大学等のオープンキャンパスに積極的に参加するよう働きかける。 ・小論文指導を通じて、自らを振り返り、自分を客観的に捉えることができるようにする。 ・生徒、保護者との面談を複数回実施し、生徒の進路目標設定を支援する。	4		・コロナ禍ではあるが、学年行事・WEBオープンキャンパス・WEB大学説明会・医療系説明会・小論文指導・面談等の考える機会を設けた結果、多くの生徒が積極的に参加し、主体的に考えるようになってきた。次年度は、具体的な進路目標を明確にし、それに向かって邁進するように指導していく。
	・基本的な生活習慣を確立させ、愛校心や道徳心を涵養し、社会の一員として行動できるようにする。	・クラスマッチ、修学旅行等の行事に積極的に参加させ、他者との適切な関わり方を学ばせる。 ・挨拶、時間、身だしなみ、清掃指導を徹底し、マナーを向上させる。 ・保健室や教育相談部、カウンセラーとの連携を更に密なものとしていく。	4		・コロナ禍で活動が制限され、修学旅行も中止になったが、他者との関わり方を考える機会は増え、全体的にマナーが向上した。保健室・教育相談部・カウンセラーと連携を取り、生徒一人ひとりに対してきめ細やかな対応を心掛けた。

3学年	・多角的に物事に取り組み、自ら課題を見つけ解決していくといった、新入試に対応できる学力を身につける。	・大学入試を意識した内容に移行し、レベルや内容について、きめ細かな授業を提供する。 ・一般選抜、学校推薦選抜、総合選抜それぞれの違いに応じた指導を展開する。	4	4	・コロナ禍での自宅学習期間があったが、遠隔授業・夏休み短縮等により例年と変わらぬ指導ができた。いわゆる新入試一学期生ということで、あったが、総合選抜、学校推薦選抜ともに生徒・保護者に丁寧に説明し、生徒に前向きに取り組ませることができた。一般選抜についても最後まであきらめない姿勢で受験に臨ませることができた。
	・自らの進路について主体的に考え、具体的に進路目標を設定し、それを生徒、保護者、教員で実現する。	・二者面談、三者面談を定期的に行い、生徒や保護者の希望をきちんと把握する。 ・進路講演会、学級懇談会等を通じて、進路に関する最新の情報を提供する。	5		・夏休みの面談において、午前中授業、午後面談という例年以上に担任負担が大きい進路指導となったが、就職・専門学校・大学ともに抜かりなく対応できた。特に大学進学においては、期間が限られた中で総合選抜、学校推薦選抜の指導が的確に行えた。
	・基本的生活習慣の確立及び維持をする。 ・愛校心や道徳心を涵養し、自主的な姿勢を身につける。	・クラスマッチ等の行事に積極的に参加する。 ・カウンセリングを推奨し、教育相談部との連携をさらに密にする。元気の挨拶、清掃の徹底を励行する。	4		・感染症対策を講じながらクラスマッチを成功させることができた。様々な点で教育相談部と連携を図り、生徒一人ひとりと向き合う支援ができた。日々の挨拶等に折り目正しい姿が見受けられた。共有スペースや水回りの清掃が徹底できた。

評価基準 5: 十分達成できている 4: 達成できている 3: 概ね達成できている 2: 不十分である 1: 達成できていない